

平成22年度財団法人政策医療振興財団研究助成金交付を受けて

名古屋第二赤十字病院 医療技術部放射線科 新美孝永

1. はじめに

私たち臨床現場で勤務する診療放射線技師には、所属施設より研究費なるものの支給はないと言っても過言ではありません。しかし、技術者である以上、日々の臨床から得られる情報をさらに進化させ医師の診断能向上へ寄与したいという欲望は誰もが持っているものと認識しています。その現れが、日本赤十字放射線技師学術総会、日赤医学会総会での演題発表であり、その数は毎年増加傾向にあります。このような混沌とした状況の中、研究職でもない診療放射線技師にも研究助成金の獲得チャンスがあるかもしれない・・・？という情報を日本赤十字放射線技師会（以後、日赤技師会とする）のホームページより入手しました。これは、日赤本社と日赤技師会を含む他の職域団体との懇談会において度重なる本社への研究費要請に対し、日赤としての研究助成金は無理だがその代わりに政策医療振興財団研究助成金交付の紹介（推薦）をするという形式で話が進んだと聞いています。何はともあれ研究助成金獲得という新たな道筋があることは私たち臨床現場の診療放射線技師にとっては歴史的に大きな一歩と考えます。しかし、このチャンスを一年目から確実にものにし、将来に渡りこの道筋を作ってこそ本当の意味での一歩となるわけです。技師会としてもホームページやメーリングリスト等の情報媒体を駆使して会員への情報提供や学術分科会への助成金応募に努めましたが急な案内でもあり、また応募締め切りも近いということもあって応募者は無く、結果として常任理事である私が記念すべき第一回の助成金申請を「2次元流体方程式を用いた局所心機能解析の臨床的有用性についての研究」という課題で行い、無事交付されることになりました。以下に政策医療振興財団研究助成金交付における主旨と応募要領を簡単に記しておきます。

2. 研究助成金交付の主旨と応募要領

当財団は、国民保健の円滑な実施に資するため、国の医療政策として行う政策医療の振興と利用者に対するサービスの向上に資することを目的とした研究に対し研究助成金の交付事業や海外において、政策医療に関し研究結果の発表、討議並びに国際学術会議等に参加する者に対して、調査研究旅費の支援事業の実施をしています。平成22年度の両事業に関する応募要領は次の通りです。

1. 募集研究課題

病院管理及びコメディカル分野等の各部門における政策医療についての開発振興に関する研究及び利用者（患者）に対するサービスの向上に関する研究。

2. 募集対象者

原則として、事務、薬剤、診療放射線、臨床検査、栄養、看護、看護教育等その他各部門の研究者又は個人の研究者。

3. 研究期間及び助成金額

研究期間は平成22年6月1日から平成23年3月31日までの間とし、助成金額は1課題80万円以内とする。

4. 提出書類

当財団が定めた研究助成金交付申請書、所属施設長の承諾書を提出期限までに1部提出する。

5. 提出期限

平成22年4月30日

6. 研究者及び研究課題等の選考

当財団の研究助成金取扱規程により選考委員会に諮り決定する。

このような経緯で研究助成金が交付されるのですが助成金額については（1課題80万円以内とされるものの）必ずしも申請した金額が交付されるとは限りません。私も満額の80万円を申請しましたが実際には半額程度しか助成されませんでした。研究内容を審査された結果なので仕方ありませんが今後申請をされる会員の皆様はぜひ満額支給を目指してください。

7. 研究者及び支援者の義務等

研究者は、研究事業終了後2ヵ月以内に研究実績報告書を当財団に提出すること。

国際会議出席支援者については出張期間終了帰国後、支援を受け出席した内容について、報告書を作成し、当財団に提出すること。当財団はその成果を月刊誌「医療の広場」に掲載する。詳細は、政策医療振興財団のホームページを参照のこと。

(<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~s-iryu/>)

### 3. 研究課題の選択

政策医療振興財団では、助成金交付の条件として「国の医療政策として行う政策医療の振興と利用者に対するサービスの向上に資することを目的とした研究に対し研究助成金の交付する」と規定しています。さらに、この規定内容に適合した課題について(1)研究事業目的(期待される成果、新規性、萌芽性、独創性等)、(2)研究事業実施計画(具体的な研究方法、期待される成果を詳細に記載)を800文字程度で記載することを要求されます。私の場合は、数年前から継続的に研究を実施している核医学分野の課題(2次元流体方程式を用いた局所心機能解析の臨床的有用性についての研究)をこの規定に適合するように書き上げ申請書を作成しました。課題選択の際に新たな研究を立ち上げることも大切ですが、これまで継続してきた研究を「政策医療の振興と利用者に対するサービスの向上に資する」という目的に適合させることも社会的に大きな意義があると考えたからです。課題選択については、あまり意識せず身近にある問題点の解決を課題とすれば本財団の主旨に適合すると思われれます。ぜひ応募してみてください。

### 4. 助成金の活用

私は、交付された助成金を使用して欧州核医学会議(European Association of Nuclear Medicine; EANM)で研究内容の一部を報告させていただきました。会場は、欧州放射線会議(European Congress of Radiology; ECR)と同じくオーストリアのウィーンですが3月に開催されるECRに比べ気候のよい10月のEANMでは旅費が2倍ほど高く、助成金無くしては参加できるものではありませんでした。病院経営が厳しく海外出張もなかなか許可されない状況の中でたいへん貴重な経験をさせていただいたことは、研究助成金獲得という新たな道筋のおかげであると考えております。それでは、参加させていただいたEANMがどのような学会であったのか他の国際学会と比較して報告したいと思います。私は、幸いにも今回を含め5回ほど国際学会で報告させていただいた経験があります。内訳としては、私たちになじみ深い北米放射線学会(Radiological Society of North America; RSNA)、ECRそしてEANMです。どの学会も医師中心の学会ですが最近では高学歴化の進行により多くの診療放射線技師が参加し報告を行っているのを見かけます。今回参加したEANMは、核医学分野では米国核医学会議(Society of Nuclear Medicine; SNM)次ぐ大きな大会であり毎年多くの日本人研究者が参加しています。しかし、核医学に特化しているため6万人が参加するRSNAや1万人のECRに比べてEANMは、数千人規模でありどのセッションもゆっくり座って発表を聞くことができました。また、会場もそれほど広くない(ECRと同じオーストリアセンター)ので移動にも時間がかからず、関心のあるセッションをかけ持ちして聞くことができました。また、EANMは、核医学専門の学会なので内容はもちろんディスカッションレベルも高く、今後の研究のために吸収できる知識は多かったです。RSNAやECRのような放射線診断学全般の学会しか参加したことがなかったので非常によい経験となりました。このような国際学会に参加することは自分に自信ができ、今後の研究によい影響を与えていることに間違いありません。



会議場(オーストリアセンター)



会議場入口付近



ポスター会場



会議室

私と同じ環境で働く仲間（赤十字病院で働く診療放射線技師）にはなるべく早い時期に日本赤十字放射線技師会の推薦による助成金交付申請制度を利用してこの経験をしていただきたいと思います。申請を検討している方は日本赤十字放射線技師会ホームページの「お問い合わせ」に申請の旨を記入し送信してください。（<http://www.jrcart.jp/info/inquiry.html>）

なお、助成研究である「2次元流体方程式を用いた局所心機能解析の臨床的有用性についての研究」の内容の詳細については、研究終了後、月刊誌「医療の広場」に掲載される予定です。

#### **謝辞**

研究助成金交付申請に際して多大なる協力をいただきました日本赤十字放射線技師会に心から感謝いたします。また、本研究に対し助成をいただきました政策医療振興財団に感謝いたします。今後はこの経験を生かして政策医療の振興と日本赤十字放射線技師会の発展のために貢献できるようにがんばっていきたいと思います。